









様式第7号

議長	副議長	局長	次長	係長	
					  

行政視察報告書

平成 29年 2月 15日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員  坂本 公明  議員   
 議員  原田 てつよ  議員   
 議員  議員 

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

【1】 広島県 尾道市議会

住 所	広島県尾道市久保1丁目15-1
電 話	0864-38-9371
視察案件	日本遺産について
期 日	平成 29年 2月 2日 (木) 10時00分から11時30分まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	
概 要	<p>◎H27年度「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」として地域型で認定を受ける。</p> <p>◎H28年度「“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島—よみがえる村上水族の記憶」として愛媛県今治市とのシリアル型で認定を受ける。</p> <p>◎H16～19年度に世界遺産登録の推進*H18～20年度に尾道市歴史的建造物及び町並み調査*H22年度に歴史文化基本構想の策定等々の取り組みがなされていた上での日本遺産への申請となった。</p> <p>◎H18年から*歴史的建造物及び街並み調査*文化財総合的モデル事業*尾道市歴史的風致維持向上計画*日本遺産認定・日本遺産魅了区推進事業等の歴史的なまちづくりを進める中で積立てて行った経緯もある。</p>

	<p>◎尾道市歴史文化基本構想についても庁舎内で、文化振興課を事務局としてまちづくり推進課、農林水産課等々の連携と共に市民参加の協議会を立ち上げていた。</p> <p>◎ストーリー作成についても、何処に魅力があるか....文化財を知らない人がストーリーを作るのが良いとの事であった。</p> <p>◎日本遺産への認定がゴールではなく、次へのステップである事を認識し、民間（まちづくり協議会、観光協会、商工会議所、文化財保護委員会等々）+行政との連携をとり、3年間の補助金後の自立も考えて行くことが必要である。</p> <p>◎現在は、補助金対象外は一般会計で賄っているとの事である。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【2】 大分県 日田市議会

住 所	大分県日田市田島2丁目6-1
電 話	0973-22-8214
視察案件	日本遺産について
期 日	平成 29年 2月 3日 (金) 9時00分 から10時30分 まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	咸宜園跡
概 要	<p>◎H27年*茨城県水戸市の日本最大規模の藩校「弘道館」*栃木県足利市の日本最古の学校「足利学校」*岡山県備前市の世界最古の庶民の為の公立学校「閑谷学校」*大分県日田市の日本最大規模の私塾「咸宜園」共に『近世日本の教育遺産群—学ぶ心・礼節の本源—』をテーマとしたシリアル型で認定を受ける。</p> <p>◎H22年度に、世界遺産推進室を日田市に設置し、水戸・足利・日田の3市の学識経験者らによる「合同学術会議を」開催するなど世界遺産登録のリスト入りを目指し、共同して調査研究を進め、H24年に3市による「教育遺産世界遺産登録推進協議会」を設立。</p> <p>◎H27年に日本遺産認定に向けて、共同で申請を行うことを契機として、備前市が協議会への加入を表明する等の経緯がある。</p> <p>◎今後は四市体制で、日本遺産として国内外への情報発信・普及啓発に努め、世界遺産登録に向けて教育遺産群の知名度の向上を図ることを目指す。</p> <p>◎尾道市と同様に、日本遺産認定がゴールではない〜どう活かすか〜=認定の審査において、ストーリーの魅力はもとより、認定後にどう取り組むかという「日本遺産を活かした地域活性化計画」の内容が問われる。との助言をいただく。。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【3】 佐賀県 伊万里市議会

住 所	佐賀県伊万里市立花町1355-1
電 話	0955-23-2594
視察案件	ふるさと納税の取組について
期 日	平成 29年 2月 3日 (金) 15時00分から16時30分まで
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	
概 要	<p>◎事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 寄付による自主財源の確保</li> <li>* 全国の寄付者に特産品を配布し、特産品のPR</li> <li>* 特産品販売額の増加と販路拡大による地域産業の活性化</li> </ul>
	<p>◎事業の経過</p> <p>〈H20年度〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 返礼品を伊万里焼ストラップとして、事業開始</li> <li>* H20～25年度の寄付金の平均額180万円/年</li> </ul> <p>〈H27年1月〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 返礼品に伊万里牛33品を追加</li> <li>⇒1月～3月で、8,311万円に寄付金増大</li> </ul> <p>〈H27年4月〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 伊万里焼・海産物・地酒など94品目追加</li> <li>* 税制改正もあいまって、4月～3月で約10億円に増大 (半額を地域産業に還元)</li> </ul> <p>◎現在、返礼品は293品であり全国屈指の品ぞろえである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 伊万里牛 51品 * 伊万里焼 132品 * 農産物 25品</li> <li>* 海産物 23品 * 地酒 21品 * その他 41品</li> </ul> <p>◎リピーターを増やし、クレームのつかないよう選定委員会を設置し、基準を設けている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 伊万里牛は「A5」ランクしか使わない (お買い得感のあるものは長続きしない)</li> <li>* 農産物は、梨だけでも1億円以上 (H28年度)</li> </ul> <p>◎今後の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 地域に埋もれている宝 (特産品) の開発とPR</li> <li>* 伊万里市への来訪者を増やす返礼品の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事券 (伊万里牛ステーキ、ハンバーグ等)</li> <li>・ 宿泊券 (宿泊して観光につなげる)</li> <li>・ 自然体験等 (農業、漁協体験、田舎暮らし等)</li> <li>・ 3点をパックとして、観光開発とする</li> </ul> </li> </ul> <p>◎ふるさと納税の使い方によっては、移住・定住につながると思う。</p> <p>◎担当職員の自信に満ちた説明が印象的であった。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

